

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100495		
法人名	有限会社 グッドウィル		
事業所名	グループホーム はるとり		
所在地	北海道釧路市春採2丁目27番1号 (電話) 0154-41-0206		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成22年3月4日	評価確定日	平成22年4月9日

【情報提供票より】(平成22年1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	15人, 非常勤 5人, 常勤換算 9.7人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,500 円

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	18名	男性	1名	女性	17名
要介護1	4名	要介護2	5名		
要介護3	4名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2	1名		
年齢	平均 86歳	最低	73歳	最高	100歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	釧央脳神経外科・さい内科クリニック・望洋歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者のADLの低下に伴い、役割事での生活リハビリや介護予防の体操、毎日の歩行運動、外出支援など個別に身体機能低下を防ぐ取り組みが行われています。昨年の5月には職員と利用者で滝上・東藻琴の芝桜に一泊での見学旅行を実施して利用者や家族から喜ばれています。地域に向けた取り組みとしてホーム行事の案内や収穫祭、防災訓練等には、利用者と一緒に近隣に参加を呼びかけ町内会主催の花植えや日帰り温泉旅行等の地域活動に積極的に参加し、災害等の非常時にはホームを利用して戴けるように案内しています。又、地域の方にも役立つ講習会や研修会をホームで開催し、地域の方との関係性を深めると共に、地域の一員として認知されているホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では、地域の方々の緊急連絡網を作成して地域との連携強化を図るように検討している点でしたがホーム内の緊急連絡網はもとより、自動通報装置が発動された場合は自動的に町内会長に連絡が入るようになっており、地域との連携が図られ協力関係が築かれています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、ホーム長、職員は自己評価を実施する意義を理解し、自己評価は、それぞれの職員が記入しホーム長が取りまとめて作成しています。評価結果の改善点は、真摯に受け止めカンファレンスで協議し、職員全員で具体的な改善に取り組んでいます。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、年6回実施されています。主な議題については 認知症サポーター養成講座 普通救命救急講習会 ホームでの食事会体験 外部評価結果報告 行事報告
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月、送付している「はるとり通信」で利用者の日常の生活ぶりや行事の際の写真に掲載して伝えており、健康状態、スタッフの紹介、金銭の出納についても報告されています。又、来訪時には気軽に話せる雰囲気作り心掛けており、遠方の家族には月1回、電話で近況報告し、状態変化についてはその都度、電話連絡しています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域に向けて行事の案内や収穫祭、防災訓練等の行事には、利用者と一緒に近隣に参加を呼びかけており、町内会主催の花植えや日帰り温泉旅行等の地域活動に参加しており、災害等の非常時にはホームを利用して戴けるように案内しています。定期的にホーム長の「手作りお菓子教室」を開催し、地域の方々が気軽に来訪して戴けるように取り組んでいます。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に「地域の中で」を新たに加え、はるとり通信に年2回は理念を記載して、町内に回覧して戴き、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとしての理念を作りあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のフロアー会議やケアカンファレンスの際に、理念に沿ったケアがなされているかを振り返る機会を作り、利用者が安心して過ごせるように管理者、職員は日々話し合い実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に向けて、ホーム行事の案内や収穫祭、研修会、防災訓練等の行事には、利用者と一緒に近隣に参加を呼びかけている。又、町内会主催の花植えや日帰り温泉旅行等の地域活動に参加しており、災害等の非常時にはホームを利用して戴けるように案内している。		ホームを理解して貰う取り組みとしてホーム長の「手作りお菓子教室」を開催し、地域の方々が気軽に来訪して戴けるように取組んでおり、町内会や町内の女性部の協力の下、避難訓練や研修会を実施している。又、地域の保育園との交流も図られている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、ホーム長、職員は自己評価を実施する意義を理解し、自己評価は、それぞれの職員が記入しホーム長が取りまとめて作成している。評価結果の改善点は、真摯に受け止めカンファレンスで協議し、職員全員で具体的な改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回実施されている。家族会会長・民生委員・包括支援センター、ホーム長・事務長・介護支援専門員・職員が参加し、地域との交流やホームの運営について意見交換されている。又、年1回、運営推進会議を兼ねた食事を開催し、献立や栄養バランスについて意見交換会も行われている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年に2回の地域包括ケア会議に近隣ホームの代表として参加して意見交換をしている。市の介護高齢者福祉課とは気軽に相談できる関係が築かれ、利用者と一緒に運営推進会議の議事録を提出している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、送付している「はるとり通信」で利用者の日常の生活ぶりや行事の際の写真を掲載して伝えており、健康状態、スタッフの紹介、金銭の出納についても報告されている。又、遠方の家族には月1回、電話で近況報告しており、状態変化についてはその都度電話連絡している。		毎月、送付している「はるとり通信」の題字は毎回、それぞれの利用者を書いて戴いており家族から喜ばれている。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時には気軽に話せる雰囲気作りに心掛けている。又、運営推進会議で家族からの意見、不満、苦情等を、外部の委員に聞いて貰う機会を設けている。その中で出た意見、要望は速やかに話し合い、結果を家族や次の会議で報告している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と利用者の信頼関係を大切に考えて、馴染みの職員が長期間に渡って勤められるように、各職員の勤務条件についての希望を聞き離職を必要最小限に抑える努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のフロアー会議で持ち回りで勉強会を開催するなど職員が働きながら学べる機会を確保している。又、外部での研修には積極的に参加を促しており、外部への研修会に参加した職員は参加できなかった職員の為に、研修報告会も開催されている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの職員が集まり勉強会や意見交換をする場を設けサービスの質の向上に取り組んでいる。又、グループホーム連絡協議会での、交換研修・訪問研修などへの参加を通じて同業者と交流する機会を持っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が少しでも安心して利用できるように、利用者・家族に見学を勧めている。見学での来訪時には、一緒におやつを摂ったり職員や利用者積極的に会話するようにして本人がホームの雰囲気や他の利用者や馴染めるように家族と相談しながら取り組んでいる。		今後は、本人や家族が安心して納得してグループホームを利用して戴く為に短期間ショートステイを勧めていきたいと考えている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の本や新聞の読み聞かせと一緒に内容について話し合ったり、テレビを見たり日常の会話を通じて喜怒哀楽を共にしながら過ごしている。利用者から調理や畑作業などの手順や漬物の漬け方を教わり又、食事の準備や後片付けを一緒に行いながら支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向はセンター方式を使って生活歴、習慣、好み等を家族からの聞き取りや日常生活での会話や表情から把握に努め、食べたい物や着たい服、買い物や散歩、ドライブなどその日の希望がなるべく実現出来るように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	日常の生活で、利用者それぞれの希望の把握や心理状態の理解に努めると共に家族からの希望や意向を反映した内容になるよう介護支援専門員・担当職員・ホーム長が中心となって介護計画を作り、それを職員全員で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画になるように作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	介護計画書に記載している個別の期間を目安に計画的に見直しが行われている。また、利用者の状態変化に応じて期間終了前であっても、随時現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	家族が連れて行けない場合や通院の支援の他、友人宅にお連れするなど柔軟な支援に努めている。又、家族が宿泊を希望した場合にも対応している。		ホームが発信地となり地域交流の場として提供し、勉強会や研修会を開催している。又、近隣のホームや社会福祉協議会の行事に参加し、交流を図っている。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者、家族の希望や要望を尊重して以前から通院していた医療機関との関係が継続出来るように支援している。状態変化などについても往診など適切な医療が受けられる体制が築かれている。又、気軽に相談できる看護師も配置され24時間相談可能な体制になっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に向けた指針については家族会で話し合われており、ホームで対応出来る限界を本人・ご家族と早い段階から話し合い、出来る限り希望に添えるように支援しており、医療機関とも相談し指示を受け職員全員で方針を共有しようとしている。		看とりの指針を作成して、家族から同意書を貰っているが、今後、緊急に医療機関で同意が必要な治療が発生する場合を想定して、すぐに連絡が取れない家族から事前に細部に渡った内容の確認書を作成し、同意を戴いている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の取り扱いについては、十分に注意して取り扱っている。一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した声かけや対応を心掛けており、損ねる場合があった際には対応が適切だったかを職員間で検討している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや習慣、その日の体調や希望に合わせ、買い物や散歩、外食やドライブなど外出支援をしている。又、食事の準備や後片付け、入浴の長さや習慣、レクリエーションの参加など本人の希望やペースに沿って柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、旬の食材を取り入れ、本人の食べたい物を聞き、献立に反映させている。又、食べられない物があれば代替品を提供している。誕生日には利用者の好みの料理で職員と一緒に食事を楽しんでおり、時々、晩酌を楽しんでいる方もいる。		本人の力量に応じて、それぞれの役割が定着し、盛りつけ、水の係、配膳などの食事の準備をしている。食事中も利用者同士や職員は楽しく会話をしながら食事をしており良い関係を築いている。食後は片付けを一緒に行い、和やかに過ごしている。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を基本として希望があれば、いつでも入浴できるように柔軟に対応している。又、ゆっくりとくつろいで入浴が楽しめるように入浴の長さや湯加減など一人ひとりの希望や習慣、体調に合わせて配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりにホームでの役割ごとが定着しており、畑やビニールハウスの様子を見に行ったり、食事の準備では調理・盛りつけ・水の係など、その仕事になると声を掛け合いながら行っている。又、普段の余暇活動なども楽しみごとになるように支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買い物や散歩が行われ、利用者と一緒に行事の案内のチャシ配りで近隣を回ったり、市役所へ運営推進会議の議事録を提出しに行っている。又、利用者から希望があれば、喫茶店や近郊の観光地へドライブなど戸外に出る機会を作っている。		昨年は、利用者の希望もあり、職員と利用者で滝上や東藻琴の芝桜を見学しに一泊の旅行を実施しており、今後も継続して行っていきたいと考えている。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、利用者の状況・行動を把握して安全に暮らせる支援に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は町内会との合同防災訓練、夜間を想定したものを含めて年2回実施されている。又、ホーム内の緊急連絡網はもとより、自動通報装置が発動された場合は自動的に町内会長に連絡が入るようになっており、地域との協力関係が築かれている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりのその日の体調に合わせた食事を提供しており、きざみ食やおかゆ、量など柔軟に支援している。食事の摂取量、水分摂取量の記載があり、一日の水分量が確保されるよう取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、四季折々の花を飾り、季節感が感じられる利用者手作りの作品を展示し、壁には日常の様子や行事の際の写真が掲示されている。又、気になる音や光は感じられず、窓には鉢花が置かれ安心感が感じられ、近所の方から寄贈されたおひな様が飾られ季節感を採り入れて居心地良く過ごせるような工夫がされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使い慣れた家具やテレビなどが持ち込まれ安心して過ごせる部屋となっている。それぞれの家族の写真が飾られ、一人ひとりが落ちついて安心して居心地よく過ごせる空間となっている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。